

# 愛媛県今治市菊間町方言の立ち上げ詞

秋山 英治

## I. はじめに

1. 調査対象地：菊間町は、松山市の北東約30kmに位置し、山並みを背に瀬戸内海の斎灘（いつきなだ）に面した町である。2005年1月16日に市町村合併によって、越智郡菊間町から今治（いまばり）市に合併された。主な産業は、町を代表する伝統工芸品である「菊間瓦」の製造であるが、それ以外にも、みかん・伊予かんなど柑橘類の栽培や、小魚漁も行われている。現在の人口は約8000人である。旧今治市と市町村合併したように旧今治市との結びつきが強いものの、国道196号線の整備やJRの利便性などから松山市方面との結びつきも比較的ある。
2. 調査年月日：2005年9月12日 午後7時から午後9時30分まで
3. 話者：森松 鴻一氏 昭和18年5月22日生、62歳、自営業
4. 調査者・調査場所：秋山英治・話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：①音声表記はカタカナで表す。なお、[æ] は、「エァ」と表す。  
②アクセントは、高音部に線を引く表記を用いる。  
③回答された文例はなるべく多く示す。複数の回答があった場合、話者のコメントでよく使うと答えたものを先に示す。  
④話者のコメントは〈 〉で示し、調査者の注記は《 》で示す。

## II. 調査結果

### I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

#### (1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッコイシヨ。チョト ヤスモ ヤー。どっこいしょ。ちょっと休もうか。〈「ドッコイシヨ」だけの場合が多く、後に続けて何か言うことは少ないと言う。〉

#### (2) どうれ。出かけることにしよう。

○ヨッコラシヨ。サー、デカケヨ カー。よっこらしょ。さあ、出かけようか。

#### (3) よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヨッコラシヨ。アー シン下。よっこらしょ。ああ、つかれた。《動作が苦勞の末に完了したことだけを言うのが普通のようなのである。》

#### (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○オー アブナカッタ ノー。タスカッタ ネエァ。おう、危なかったなあ。助かったよ。〈「しまった」を「ヨーイ」と言うこともある。〉

#### (5) くわばらくわばら。恐ろしかった。

○オー ヨワカッタ アー。おう、怖かったなあ。《「くわばらくわばら」というような決まり文句はなく、危険であったことを振り返る言い方をするようである。》

(6) しめた！ 今度の魚は大きいぞ。

○ヨッシャー。キタ ゾー。よし。きたぞ。

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○ヨーシ。イク ゾー。ようし。いくぞ。

(8) なにくそ！ 負けてなるものか。

○ナニクソ。マケルモン カ。なにくそ、負けるものか。〈踏ん張って頑張る場合、かけ声だけの時が多いと言う。〉

(9) しめしめ！ 誰も気がついていない。

○ヨッシャー。シランヨーヤ アー。よし。知らないようだな。

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○エー。ラシガ セナ イカン カー。ええ。私がしないといけないのかあ。〈気の進まない用事を頼まれて不満な時に「つまらない」とは言わないと言う。〉

(11) ちくしょう！ 仕返しをしてやる。

○チクシヨー。オドレー。ちくしょう。おまえ。

(12) くそっ！ 覚えている！

○クソー。オボイトレ ヨ。くそ。覚えておけよ。

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○ドシタン ゾ。ナニガ アッタン ゾ。どうしたのか。何があったのか。

(14) えへん、えへん、吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○ドンチ モン ゾー。どんなもんだい。ノコンチ モン ヨー。これくらいのものだよ。〈あからさまにいばったり得意になったりする言い方を避け、控えめな言い方をよく使うと言う。「エヘン」を使うことないわけではないが、まれである。〉

(15) はてな、ここはどうだろう？

○ヨイヨイ、ココ ドコゾイ アー。ドーショー カー。おいおい、ここはどこかなあ。どうしようか。ノヨイヨイ ココ ドコ ジャロカ アー。ドーショー カー。おいおい、ここはどこだろうかなあ。どうしようか。〈二人の場合は、「ドースル アー」となると言う。〉

## II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハイハイ、ワカリマシタ。はいはい、わかりました。〈「ハイ」は1回ではなく、2回繰り返すことが普通であると言う。〉

(17) はい、宜しゅうございます。

- ハイ、エーデス ヨ。はい、いいですよ。(対等の人に対しては「エーヨ。」や「エーゾナ」を使うと言う。)
- (18) ええ、ここに居ます。  
○ハイ、ココニ オリマス。はい、ここにおります。
- (19) んだ。私の傘です。  
○オー、ワシヲ ヨ。おー、わたしのだよ。
- (20) さよう、さよう。あなたの言う通り。  
○ホーヨ、ホーヨ。ユートーリ ヨ。そうだ、そうだ。言う通りだよ。(「そうだ」を「ホーヤー ナー」と言うこともあると言う。)
- (21) はいきた。おやすいご用です。  
○エー、カマン ゾナ。ええ、いいですよ。
- (22) よっしゃ。やりましょう。  
○ショーガナイ。ヤロ ワイ。仕方がない。やりましょう。(自ら行いたいと待ち望んでいたことを頼まれた時に、自らが進んで行くという言い方をできるだけ避け、相手が頼んできたことを仕方なく了承するような言い方を使うと言う。)《相手の頼みを了承したり、相手の過失を許したりする言い方として、広く「カマン」を使う。》
- (23) よしきた。お引き受けいたしましょう。  
○ワカリマシタ。エーデス ヨ。ヤリマシヨ ワイ。わかりました。いいですよ。やりましょう。
- (24) がってんだ。一緒に行きましょう。  
○エーゾナ。ホンナラ イク カ。いいですよ。それなら行きましょう。
- (25) かつぱのへだ。簡単だ。  
○ウン。カントン。カントン。オチャノコ サイサイ ヨ。うん。簡単だ。簡単だ。お茶の子さいさいだよ。
- (26) いえいえ、とんでもございません。  
○イーエー、ソンナニ シテ モロテ、カエッテ ゴメイワク カケマシタ。いえいえ、そんなにしてもらって、かえってご迷惑かけました。
- (27) なんの、たいしたことではございません。  
○イーエー、カマン ゾ。いえいえ、かまいませんよ。
- (28) なあに、擦り傷(すりきず) ぐらい、すぐ治るさ。  
○ドーテ コト ナイ。ツバ ツケトイタラ ナオライ。たいしたことはない。つばをつけておいたら治るよ。
- (29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！  
○ナン ゴー アイツワ。チョーシモン ガー。なんだ、あいつは。調子者のくせに。
- (30) いやはや、とんだ目に遭(あ) いました。

- エー、ヒドイメニ オーダ ワイ ー。ええ、ひどい目に遭ったよ。
- (31)へん、勝手にしやがれ。  
○カッテニ セイ。勝手にしろ。
- (32)なめるんじゃねえよ。こいつ！  
○ナメル ナー。アタマニ クル ー。なめるなあ。頭にくるぞ。
- (33)冗談じゃない。口から出任せを言って！  
○チョト マテー。ジョーダン ユー ナー。アル コト ナイ コト ユーテ。冗談を言うなあ。あることないことを言って。
- (34)だまらっしゃい。出鱈目（でたらめ）ばかり言って！  
○ヌカス ナー。ウソ バーカリ ユーテ。ぬかすなあ。嘘ばかり言って。〈「何を言うのか」という意味で「ナニヌカー」と言うこともあると言う。〉
- (35)そうは問屋がおろさねえ。黙ってられねえ。  
○ソワ ユーケド ー。ソナ コト ユーテ。ソージャ ナカロ ガー。ダマツトレン。そうはいうけどなあ。そんなことを言って。そうではなからう。黙ってられない。
- (36)うそもへちまもありやしねえ。我慢（がまん）できねえ。  
○ウソー ユーナ。ガマン デキン ー。うそをいうな。我慢できないぞ。／ウソーバーカリ ユーテ。ガマン デキン ー。うそばかりいうな。我慢できないぞ。
- (37)寝言は寝ていえ。このやろう。  
○ソレ ウソ ジャロ ガー。それはうそだろう。／ソレ ウソ ジャー。それはうそだ。
- (38)あたりきしやりきのけつあな。当たり前だ。  
○アタリマエ ジャロ ガー。当たり前だ。
- (39)きみようきてれつだ。それは変だ。  
○へー、ホント カー。オカシー コト ナイ ー。へえ、本当かあ。おかしいことではないか。／へー ウソ ジャロ ガー。へえ、うそだろう。
- (40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。  
○へー、エーコ ジャー ー。へえ、立派な子だねえ。
- (41)まいったまいった。しかたがない。  
○マイツタ。ショーガナイ ネエア。まいった。しかたがないなあ。〈「マイツタ」を使わないことはないが、あまり使うことはないと言う。〉

Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

- (42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。  
○スイマセン。ヤクバ ドコ ジャロ ノ。すみません。役場はどこですか。

(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○サーサー。ドーゾ、ドーゾ。ハイッテ クダサイ。さあさあ、どうぞどうぞ。

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○チョト、チョト。アソコニ コーエンガ アロー。ちょっと、ちょっと。あそこに公園があるでしょ。〈「ツレ、オミ。」という表現もあるが、この表現は「やはりそうだったでしょ。」という意味で使い、「ほら、あれをご覧なさい」という意味では使わないと言う。また、「ほら、ご覧なさい。」というのを、子供のころには「アロン（あれをご覧ください）」「ソロン（それをご覧ください）」「コロン（これをご覧ください）」を使っていたと言う。〉《「アロン」「ソロン」「コロン」とは、「あれorそれorこれ+お見ん」という表現が縮まったもので、今治市周辺で聞かれる。もともと「～+お見ん」から生じた表現であり、敬語表現の一つである。その他、今治市周辺では、「アレン」「ソレン」「コレン」という似た表現も聞かれる。これらは、「あれorそれorこれ+見ん」の縮まったものであり、敬語表現ではない。》

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○ヨイヨイ。ソナニ ハヨーニ ドコ イクン ゾー。ようよう、そんなに朝早くにどこに行くのか。

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○ヨーイ。コレカラ ナニ スルン ゾー。よう、これから何をするのか。〈目の前にいる時には、「ヨー」や「オッ」などを使うと言う。〉

(47)いざ、さらば。

○ソレ ジャー、カイツテ コーワイ。それでは、帰るよ。〈親しい人には、「インデ コーワイ」を使うという。〉 ※(85)参照。

(48)ささ、ご遠慮なく、召し上がって下さい。

○サーサー、ドーゾ、ドーゾ。タベテ クダサイ。さあさあ、どうぞ、どうぞ。食べてください。

(49)さて、そろそろ一服しませんか。

○ソレ ジャー、イップク スルカ ナー。それでは、一服しようか。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○ヨイヨイ。シズカニ セイ ヤー。これこれ、静かにしなさい。

(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オイ、ナニ シヨン ゾー。マンビキ ナンカ イクマイ ガー。おい、何をしているんだ。万引きなんかいけないだろう。

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか！

○オンドレー。イーカゲンニ セン カー。おまえ、いい加減にしないか。〈「おまえ」を「オドレー」とも言う。(53)の「おまえ」も同様。〉

- (53) おのれ、裏切りやがったな。  
 ○オンドレー、ダマシタ ナー。おまえ、だましたな。
- (54) どっこい。その手には乗らない。  
 ○ヨイヨイ、ソーワ イカン ゴー。おいおい。そうはいかないぞ。
- (55) どうだ、参ったか？  
 ○ドー ゴー、マイッタロ ガー。どうだ、参っただろう。(普段、このような表現をいうことはほとんどないと言う。)
- (56) せいの、よいしょ！  
 ○セーナー、ヨイショー。せいの、よいしょ。
- (57) ようい、どん！  
 ○ヨーイ、ドン。ようい、どん。
- (58) いっせいの、で！  
 ○セーナー。せいの。
- (59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！  
 ○ヨイショ、ヨイショ、モー チョト ゴー。よいしょ、よいしょ、もう少しだぞ。
- (60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。  
 ○セーナー、セーナー。モー チョト ゴー。せいの、せいの、もう少しだぞ。
- (61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。  
 ○ワッショイ、ワッショイ。わっしょい、わっしょい。
- (62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！ あいこでしょ。  
 ○ジャンケン ボン。アイコデ ショ。じゃんけん、ぼん。あいこでしょ。(とくに地域特有のかけ声はないと言う。)
- (63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。  
 ○キオツケ、マエ ナラエ、ナオレ。きをつけ、まえへならえ、なおれ。(学校で使うかけ声については、地域特有の言い方はなく、学校で習った言い方を使うと言う。)
- (64) きりつ、れい、ちゃくせき。  
 ○キリツ、レイ、チャクセキ。きりつ、れい、ちゃくせき。
- (65) ばんざい、ばんざい。やった、やった。  
 ○ヨッシャ、ヤッタ、ヤッタ。よし、やった、やった。(「バンザイ、バンザイ」といわないことはないが、あまり言わないと言う。団体に応援した時に、みんなで声をあわせて言う時などでは使うこともある。)
- (66) えいえいおう。がんばろぞ。  
 ○サー、ヤル ゴー。さあ、やるぞ。(「エイ エイ オー」と言うこともあるが、言わないことの方が多いたう言う。)
- (67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

- カンパイ。オメデトー。乾杯。おめでとう。
- (68) やっほう、やっほう。  
○ヤッホー、ヤッホー。やっほう、やっほう。
- (69) ふれえ、ふれえ、白組。  
○フレー、フレー、シロ。フレ、フレ、白組。
- (70) おにはそと、ふくはうち。  
○オニモー ウチ、フクモー ウチ。鬼もうち、福もうち。(本来、菊間町全体ではなく、瓦製造業を営む家でのみ使われていたが、後に菊間町で広く言うようになったと言う。ただし、「オニハー ソト、フクハー ウチ」という言い方がないというわけではなく、一般の家庭ではこの言い方も見られるようである。)《菊間町の主な産業である「菊間瓦」において、「鬼瓦」はシンボリックな存在である。そのため、瓦製造業を営む家では、「鬼」は福を招く大切なものと考え、「鬼はそと」ではなく「鬼もうち」という言い方をする。》
- (71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。  
○バカ ガー、ナニオ ションノ ソー。馬鹿者が、何をしているのだ。
- (72) それみたことか、わんぱく坊主。  
○ヨイヨイ、ソレ ミー。ナンボ ユーテモ キカン ナー。おいおい、それみろ。何度言っても聞かないなあ。
- (73) ざまあ、みろ。いい気味だ。  
○ソレ ミー。エー キミジャ。それみろ。いい気味だ。
- (74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。  
○クソ。ヒドイ コト ユー ナー。くそう、ひどいことを言うなあ。
- (75) このやろう。どうしてくれようか。  
○クソ。ドー スル ソ。くそう。どうしてくれようか。
- (76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。  
○アノ ニャー、ラザケタ コト ユーナ。あのなあ、ふざけたこと言うな。(きつく言う時は、「アノ ニャー」が「バカ ガー」になると言う。)
- (77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。  
○バカ ガー、イーカゲン セイ ヤー。ばかやろう。いい加減にしろよ。/バカ ガー、イーカゲシナ コト ユーナ。ばかやろう。いい加減なことを言うな。
- (78) あなかま、静かにしなさい。  
○ヤカマシー ガ。シズカニ セイ ヤー。やかましいぞ。静かにしろよ。(やさしく声をかける時には、「ヤカマシー ガ」ではなく、「ヨーイ」となると言う。)
- (79) しいっ、静かにして!  
○シー、シズカニ セイ。しい、静かにしろ。

(80) ちちんぷがい、蛙、蛙、生き返れ。

○イキイキ 下ンコ。イキイキ 下ンコ。生き返れ、魚。生き返れ、魚。〈生き返らせようとする対象は、主に魚であって、蛙には使わない（たとえ殺すことはあっても生き返らせようとするのではない）と言う。〉《「どんこ」の語源について、話者に町の歴史などに詳しいという別の方に聞いてもらったところ、もともとは淡水魚の「どんこ」のことを意味していたという回答を得た。しかし、話者は淡水魚の「どんこ」ではなく、小魚一般（とくに白身の小魚）に使うと言っており、意味範囲は広がっている。》

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アカンベー。オニサン コチラ。あっかんべい。鬼さん、こちら。

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ヨー ヤッタ。ヨー ヤッタ。よくやった。よくやった。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ヤッタ ナー。スゴイ ナー。やったなあ。すごいなあ。〈子供に対しては、「エライ エライ。」を使うと言う〉。

(84) しっけい！ すみません。

○アッ、スマン、スマン。あっ、すまない、すまない。〈丁寧に言う時は、「スイマセン。」を使うと言う〉。

(85) あばよ、達者でな。

○インデ コー ワイ。帰りますよ。〈目上の人には、「ソレ ジャー、カイツェ コーワイ。」を使う。〉 ※(47)参照。

### III. 総括（まとめ）

菊間町方言の立ち上げ詞の特徴は、大きく次の4点があげられる。

- ① 自らの積極性を示す言い方を極力避ける傾向がある。
- ② 自らの能力を誇示する言い方を極力避ける傾向がある。
- ③ 相手が上位待遇者か同輩以下かで、言い方を区別することがある。
- ④ 地域の地理的環境や産業と関連した言い方が見られる。

①については、話者がコメントしたように、自ら進んで行いたいと思っても、自らの積極性を示す言い方を言うことはなく、相手が頼んできたことを了承する言い方を使うという傾向が見られる。その典型的な例が、「ショーガナイ」で、相手の頼みを仕方なく了承する表現である。その他相手からの頼みを了承する表現として、「ワカリマシタ」「エーデス ヨ」「エーゾナ」などがある。一見すると、これらの表現には主体性がなく、消極的な表現のように思われる。話者によれば、地域において、自己主張すると集団の調和を乱すもとなる（可能性が高い）ので、仮に自己主張したくても、自らが考えを述べ



るのではなく、相手（集団）の考えによってそのようなになったという表現を使おうとするということであった。つまり、地域集団で円滑なコミュニケーションを行うには、自分主体の表現を用いたくても、相手主体の表現でなければならないのである。このように考えると、上記の表現は、気遣いの立ち上げ詞とすることができる。

②についても、基本的には①と同じことが言える。自らの力を誇示する言い方は、えてして自慢めいた表現となり、相手の気分を害することにもなりやすい。そこで、「エヘン」のようにあからさまに自らの能力を誇示するような表現を極力避け、できる限り控えめな表現を使うのである（話者によれば、場合によってはそのような表現自体を言わないこともあると言う）。たとえば、「どうだ、参ったか？」という時には、確かに「ドー ゾー、マイッタ ロー。」という表現を使うわけであるが、実際に使うことはまれであると話者はコメントしている。この点でも、自分の心情よりも相手の心情を第一に考えていることがわかる。やはり相手主体の表現、つまり気遣いの表現を好むと言える。

③について、すべてではないものの、表現に待遇差の見られるものがあつた。たとえば、目上の人に「良いですか」と言われた時に「はい、宜しゅうございます」と答える場面では、「ハイ、エー デス ヨ。」と敬語を含んだ表現を用いるのに対して、対等以下の人に対しては「エー ヨ。」「エー ゾナ」のように敬語を含まない表現を使う。また、別れの挨拶の場面では、目上の人には、「ソレ ジャー、カイツテ コー ワイ。」と共通語と同じ語である「帰る」（実際には「帰る」の方言形である「カイル」）を使うのに対して、対等以下の人には、「インデ コー ワイ。」と非共通語である「イヌ」を使っている。さらに、目上の人には、「帰ります」と言う前に必ず「ソレ ジャー」が付くのに対して、対等以下の人には、何も付かないという違いもある。一つ前置きを入れるのか、それとも入れないのかによって待遇差があるというのは、待遇表現を考える上で興味深い。その他にも、子供のころに使っていた表現ではあるものの、「アロン」「ゾロン」「コロン」と「アレン」「ゾレン」「コレン」とを使い分けることで待遇差を表す表現も見られる。

④について、地域の環境や産業と関連した言い方が見られる。たとえば、菊間町は、海に面した小魚漁が盛んな町であること（地理的環境と産業の関わり）から、「死にかけている生き物を生き返らせる」時の呪（まじな）いとして、小魚を意味する「どんこ」という語を含んだ表現（「イキイキ ドン コ。 イキイキ ドン コ。」）が見られる。また、主な産業が瓦製造であることから、節分の時の言い方として、「オニ モー ウチ、フク モー ウチ。」という表現も見られる。例としてはわずかではあるものの、これらの表現は、地域の地理的環境や産業がの密接な関わりを示した例として注目される。

（あきやま えいじ 帝京第五高等学校富士校）